気仙沼市 教育課程特例校による特別の教育課程の編成の方針等について

気仙沼市の特別の教育課程を編成する学校一覧

気仙沼市立鹿折小学校 気仙沼市立唐桑小学校

特別の教育課程の概要

地域の環境、産業、伝統、文化、暮らしなどを関連付け、被災地という特性を踏まえた探究的な学習を行う新たな 領域「海と生きる探究活動」の時間を新設しました。「海と生きる探究活動」は、小学校３年生から小学校６年生に おいて、総合的な学習の時間と国語、社会、理科の一部を組み替えて教育課程を編成したものです。「海と生きる探究活動」においては、生産者や事業者、地域の実践者等との交流や学び等の機会を積極的に活用し、海や海とつながる川や山などの環境、産業、暮らし、伝統・文化などを関連付け、科学的及び社会的な分野において生きて働く「知識・技能」、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」を育成するとともに、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」を図ります。

特別の教育課程を編成して教育を行う必要性

気仙沼市は、東日本大震災の被災地域であり、沿岸地域には甚大な被害を受けました。このことを踏まえ、平成 23 年に「海と生きる」をキャッチフレーズとした震災復興計画を策定しました。この震災復興計画では、本市の将 来像として、地域の特色を生かした水産業及びその関連産業、豊かな食を生かした観光業などにより、持続発展可能 な都市を目指しています。東日本大震災の被災地としての経験と復興から地方創生を図り、「海と生きる」を実現す るために、気仙沼市教育大綱において３つの基本理念とその実現に必要となる力を定めた。基本理念としては、「人 を思いやる優しさと高い倫理感、豊かな感性」、「自立し創造的に生きていく力」、「郷土に貢献し、世界で活躍す るためのグローバルな視点」の３つを定めています。理念の実現に必要な力を、F・I・S・H（＝Foresight「先を見 渡す力」、Insight「本質を見抜く力」、Strategy「道を切り拓く力」、Harmony「つなぐ力」）の４つの観点で整理しました。

このような、「海と生きる」という市の施策や教育の理念に基づいた教育の展開を進めていくために、これまでの教科・領域の学習や関連を図っただけの学習では不十分であると考えました。新設の教育課程においては、海とともに暮らしがあるという本市の歴史と文化、産業等とともに、被災地として、復興と新たなまちづくりを進める人々の営みにふれる学習を通して、海を中心とした地域の自然や人々に親しみながら地域を知り、地域や日本のよさや様々な資源を守り、よさや資源を上手に活用して社会に貢献することを学びます。この学びを通して、生きて働く知識・技能の習得を図り、「先を見渡す力」と「本質を見抜く力」を育成することで、未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力の育成を確かなものとし、「道を切り拓く力」と「つなぐ力」を備えた学びに向かう力と人間性の涵養を目指していきたいと考えています。

以上のようなことから、本市では、これまでの教科・領域の枠を超えた新たな教育課程の編成に基づく教育の実施が必要です。